

科目名	成人看護学	単位(時間)	5(170)	28・29期生	DP
担当講師名	専任教員 他			1年次～ 2年次	1・2・3・4
科目設定理由	<p>人間のライフサイクルにおいて成人期は、心身の機能の発達と維持、加齢に伴う変化に適応しながら、社会的責任を大きく担う時期である。現代の成人期にある人々の生活様式は多様化し、生活環境全般がストレスに満ちており、生活や健康にさまざまな影響を及ぼしている。成人看護学は、青年期から向老期までの期間にある人々を対象とし、対象の健康の保持増進・疾病の予防、及び、様々な健康状態にある対象の回復を支える看護を学ぶことをねらいとする。成人期にある対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広い視野から理解し、看護の果たす役割を考えられることを目指す。このため、成人看護学講座では、以下の科目を設け、段階的に成人期にある対象への看護が学べる構成としている。</p> <p>成人看護学概論では、対象の健康の保持・増進及び疾病の予防に対する看護の土台となる統計や法制度を学ぶ。成人期にある人々の生活と健康の関連を包括的に捉え、様々な健康状態にある対象の回復支援に用いられている看護理論や概念を学習する。この学習によって成人期にある対象の健康課題に対応し、千葉県保健医療福祉に貢献できる能力を養う。成人看護学援助論Ⅰでは、様々な疾病や健康障害について系統立てて学び、看護を提供するための科学的根拠となる知識を学習する。この学習によって、根拠に基づく看護を展開できるために必要な基本的知識を養う。成人看護学援助論Ⅱでは、患者中心の看護過程の展開を紙上事例を用いて学習する。演習では看護師として必要な人間関係を形成するコミュニケーションを能力を養い、既習学習を活かして必要な判断を実施する。この学習によって主体的な学びによる看護を展開できる基本的能力を養い、ヒューマンケアリングに基づく行動の獲得を目指す。</p>				
科目構成	科目名	成人看護学概論	成人看護援助論Ⅰ	成人看護援助論Ⅱ	
	単位時間	1単位20時間	1単位30時間	1単位30時間	
	学習範囲	1.成人期の対象の理解 2.経過に応じた看護 3.がん看護	1.性・生殖機能障害のある患者の看護 2.栄養・代謝機能障害のある患者の看護 3.排泄機能障害のある患者の看護 4.消化・吸収機能障害のある患者の看護 5.運動機能障害のある患者の看護 6.循環機能障害のある患者の看護 7.脳・神経機能障害のある患者の看護 8.内分泌・免疫機能障害のある患者の看護	1.重症救急患者の看護 2.手術療法を受ける患者の看護	
	科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ			
単位時間	2 単位90時間				
実習のねらい	<p>成人・老年看護学実習は、成人看護学及び老年看護学それぞれの学習を基盤にし、成人期から同年樹までの患者とその家族を対象として、急性期及び慢性期の看護を学ぶ。</p> <p>成人・老年看護学実習Ⅰでは、周手術期にある対象が受ける身体及び精神面への影響を理解し、回復を促すための看護ができることを目的とする。成人・老年看護学実習Ⅱでは、慢性的な健康障害をもつ対象の思いを尊重しながら、生活の質を考慮した個別性のある看護ができることを目的とする。</p> <p>成人期は人生の中で40年以上を占める長い時期であり、身体は、その機能を発達・成熟させ徐々に衰退を迎える。同時に自立や自己の職業選択、家族との生活や地域あるいは社会などで、自己の役割を果たし生活を営んでいる。入院や手術によって変化した役割を理解し、もとの生活に戻るためのよりよい看護を考えたい。</p> <p>周手術期にある患者は、手術に対する期待と不安の混じる心理的变化を経て手術を決断している。また手術は、患者にとって予期せぬ危機的状況となりえる。手術は生体に対する意図的な損傷であり、麻酔は生命維持に大きな影響を与える。成人・老年看護学実習Ⅰでは、患者が抱く思いに関心を持ち、寄り添う意味を考えたい。また、手術による侵襲が回復過程にどのように影響するか、身体の症状や目に見える現象が正常なのか異常であるかの判断は、知識をもとにした観察と経験が必要である。患者の日々の変化を捉えながら手術後の回復が順調に進むための看護を対象理解を深めながら考える場としたい。</p>				